



CHOFU SAND ART PROJECT

TOSHIHIKO HOSAKA

アート × 共生社会

調布市では、共生社会の充実に向けて、「パラハートちょうふ」のキャッチフレーズの下、様々な障害への理解を深める取組を行っています。障害者スポーツ体験会や、パラアート展など、障害の有無にかかわらず、スポーツや文化活動を楽しめるイベントを開催しています。東京2020大会に向けて開催してきた「パラアート展」では市内の福祉作業所等で活動されている方々のアート作品を展示するとともに、障害の有無にかかわらず誰もが楽しんで参加できるワークショップを実施してきました。大会開催期間中にも保坂氏によるサンドアートの体験ワークショップを予定していました。保坂氏は、過去にも子供から大人まで幅広い世代が芸術活動を自由に楽しむことのできるサンドアートのワークショップを各地で展開されています。自由な表現の楽しさ、一つ一つが全く違う面白さや、またそれが一つの作品に集まったときの迫力など、アートを通じて多様性を認め合い、共生社会の充実に向けた動きを感じていただくきっかけとなるよう、今後も様々な取組を展開していきます。

WHAT'S SAND ART?

砂像、サンドクラフトとも言われ、砂と水のみで制作された彫刻で、芯材などは入っていません。彫刻後、雨や風、乾燥により砂が崩れるのを防ぐため、定着剤を吹きかけ表面のみを固めます。



パラハート
ちょうふ
つなげよう、ひろげよう、
共に生きるまち

「パラハートちょうふ」のキャッチフレーズには、「市内外の多くの方々がさまざまな障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる共生社会を実現したい」という思いを込めています。



保坂 俊彦 (ほさか としひこ)

調布市ゆかりの国際的に活躍するアーティスト。現在は東松島市地域おこし協力隊として活動中（令和3年4月1日～）。東京藝術大学在学中より各種イベントにおいて砂像の制作を始める。卒業後、様々な素材による店舗や撮影用の美術品、ディスプレイ用オブジェなどの立体造形物、商業玩具原型等の制作を手がける。現在は国内・国外の各種イベントにおいて砂像の制作、指導のほか、CM・PR用砂像の制作、イベントの総合演出、また砂の定着剤や玩具の共同開発、砂像を通し海外との交流事業への協力などを行っている。